

# じん だ い

第77号

2024.10.25 (金)

発行：医療法人社団 欣助会 吉祥寺病院

調布市深大寺北町4-17-1 ☎042-482-9151  
URL [www.kichijoji-hospital.com](http://www.kichijoji-hospital.com)



## 基本理念

患者様やご家族の側に立った医療  
患者様の社会復帰を目指す医療  
全職員相互の力を発揮できる医療



2024年9月 モンゴルにて

## Contents

文化祭 .....	2
【連載】 どうしよう倶楽部 .....	4
【連載】 本能寺からお玉ヶ池へ ~その⑳~ .....	5
企画運営会議プレゼンツ 夏はみんなでBBQ イベント .....	8
私の趣味紹介 .....	9
令和6年度 大規模地震医療活動訓練に参加しました .....	10
【リレー連載】 部署紹介 / 当院のおすすめメニュー .....	11
外来担当表 / 当院略図 / 編集後記 .....	12



今年の夏も全国的に暑かったですね。9月18日には、東京で統計開始以来最も遅い猛暑日を記録。82年ぶりの更新だったそうです。それでも、朝晩はいくぶん暑さもやわらぎ、秋の訪れをようやく感じられる季節となりました。

秋といえば、好天が続き過ぎやすく、人々が活動的となるため、お祭りやイベントも各地で開催されます。日本人の生活に彩と活気をもたらすエネルギーに満ちた季節です。「文化祭」はそんな秋のイベントの代表の一つかと思います。吉祥寺病院では、コロナ禍になり2019年以來ずっと開催を見送ってきましたが、この秋5年ぶりに再開することにいたしました。目下、その準備を着々と進めています。

今回、広報誌“じんだい”編集部より、「文化祭」の過去から近年までの変遷を紹介するコーナーを掲載したいという執筆依頼を受けました。とはいっても、ここ20年位の様子しか私は知らないもので、そのあたりを中心に書いてみることにします。

## 記念誌『60年の歩み』より

もっと以前のことも知りたいと思い、2015年に出版された吉祥寺病院記念誌『60年の歩み』を遡ってみました。残念ながら「文化祭」の文字は見当たらなかったのですが、白黒の古い記録写真を見ると笑顔の患者様たちとともに、「焼きとり、本日開店」、「密の味」などの手書き文字の看板が見える院庭でのお店の写真があります。これは、模擬店で賑わっていたコロナ禍前の最近の「文化祭」に通じるものと思います。他には、患者様も職員も熱の入った扮装を披露している「仮装大会」の写真もあります。繰り返し開催され、盛り上がったようですが、患者様や職員の和やかで楽しそうな表情を見ると、最近の「文化祭」と変わらないなあと感じます。そもそも病院のイベントは、“患者様も職員も笑顔になれる、いつもと違う1日を提供したい”という、職員の熱意が形になったもの。それは昔も今も変わりません。

## ここ20年くらいのこと

私が入職した頃の「文化祭」は、病棟単位で出店する模擬店の数も増え、ふだん口にできない美味しい味覚を患者様が目を輝かせて口にされ「おいしいね!」と笑顔で職員と会話されているのが印象的でした。当時、これとは別に「やすらぎ会（家族会）」主催のバザーも開催されていて、近隣住民の皆様にもバザー物品の提供や購入を呼びかけていました。2005年頃から暫くは、この2つのイベントは隔年位のペースで同時開催されるようになり、ますます賑わうお祭りとなりました。近隣住民の皆様には病院の中の様子を知っていただく良い機会でもありました。

## 大人気の模擬店

コロナ禍前の模擬店には、年々のレク委員や病棟職員の「これをぜひ食べてもらいたい!」という熱い思いからさまざまなメニューが並びました。焼きソバやタコ焼き、フランクフルト、焼き芋、特上米おにぎりや焼きとりのセット、チーズケーキやホットケーキ、鯛焼き、今川焼き、お汁粉や甘酒、綿あめ、プリン、フルーツゼリー、杏仁フルーツなどなど、聞くだけでお腹がすきそうな魅惑のラインナップ! 他にはB1病棟が“金魚すくい”を行った年もありました。その時の金魚は大事に育てられ、B3病棟では数年前まで水槽で泳ぐ姿が見られました。すっかり大きくなって年老いてはいましたが、ナースステーションから患者様たちの様子を見守り続けてくれました。作業療法科では、日々の患者様のがんばりを披露する作品展や、竹とんぼコンテスト、紙飛行機コンテスト、○×ゲーム大会などを企画し盛り上げました。医療福祉に造詣のあるピエロさんを招いて院庭でパフォーマンスをしてもらった、なんてこともありました。

## デイケアの取りくみ

デイケアも以前より毎回参加し、ティラミス、マドレーヌ、チョコムース、コーヒーゼリー、タピオカティーのような甘味や、手作り作品を中心に出店。デイケアプログラムの一環として、企画から準備、運営までをメンバーの皆さんが話し合いを重ねて練

り上げ、本番を迎えていました。文化祭で行う模擬店の意義を最も体現していたのではないかと思います。最近では、年々腕を上げて美味しくなった“お好み焼き”はとても印象深いです。文化祭経験者がデイケアを卒業され、未経験の方がほとんどという中で、今年は「焼きそば」に挑戦するとか。楽しみですね!

## 近隣の作業所さんの協力

調布市や三鷹市の作業所さんにも出店にご協力いただき、コロナ禍前最後となった2019年には、全6病棟+デイケア+5カ所の作業所という最多店舗数となり大いに賑わいました。あいにく当院は庭が広くはないので、各々小ぢんまりと出店していただくのですが、焼きそばや骨付きソーセージ、各作業所で製造販売されているクッキー、カップケーキなどもあり、患者様や職員が作業所の活動の一端を知り、メンバーさんやスタッフさんと交流する場ともなりました。

## 今年の「文化祭」は……

5年ぶりの再開には不安がありました。職員の世代交代もあり、運営で中心となる若い職員には、かつての「文化祭」を経験した人がほとんどいません。レク委員会で「かつてはね、模擬店がこんなにあって……楽しいゲームとかもやって……賑わったんですよ!」でも、以前の形にこだわり過ぎずに新しい文化祭を創るつもりで……」などと説明しても、若い委員の皆さんの頭の上には「??」が並びばかり。病棟からの出店を検討してほしいと依頼するものの、検討すること自体が難しいかなあとも思いました。それでも、以前開催した時の写真を見たら、なんとなくイメージが湧いたようで、各病棟の企画も動き出しました。結果、全6病棟が出店にエントリー。かつての5つの作業所さんも全て快く再開に協力を申し出てください、ますます盛り上がりそうです。コロナ禍によってもろくも壊されかけた、当院が長年大切に培ってきた文化（人と人とのつながり）を手探りで再生する、そんな意義深いお祭になるものと期待しています。（近隣への公開は予定していません。ご了承ください。）



このコーナーでは、精神科病院がどのように進化し、社会において「頼れる存在」になるために取り組んでいるかを詳しく掘り下げていきます。偏見やネガティブなイメージを払拭し、メンタルヘルスに対する理解を深めてまいります。

## 吉祥寺病院の病棟の様子や診療について

医師 狩野 悦生

「精神科」と聞くと正直ネガティブなイメージを持たれる方が多いのではないのでしょうか。特に精神科の病棟ってどんな様子なのか、精神科ってどんな風に治療をしているのか、わからない部分がたくさんあると思います。今回はそういう方に向けて、吉祥寺病院の病棟はこんな様子ですよ、治療はこんな風にしていますよ、という内容を私自身の観点からお伝えできればと思います。

私は精神科医となって3年目にこの吉祥寺病院に入職しました。それ以前は全ての診療科が揃っている大学病院で仕事をしておりました。なので、吉祥寺病院のように精神科しか診療科がない病院で働くのが初めてだった私は正直、「どういう環境のかな？」と不安を持ちながらこの吉祥寺病院に入職しました。

しかし、その不安はすぐにはなくなりました。病院の外観、ロビーや外来、病棟内はとても清潔で、病棟内には患者さん同士が交流できる広いホールもあります。これは見てみないとわからない部分がありますが、私の印象では、「病棟は綺麗で広くて、開放感があるな」という感想です。患者さんは自分の部屋でゆっくり過ごしている方もいますし、ホールで患者さん同士、会話を楽しんで過ごしている方もいらっしゃいます。特に、患者さん同士がホールで卓球をしている姿を見ると「あっ、楽しんでいるな」と微笑ましく感じます。

診療の仕方についてですが、この吉祥寺病院では、治療を医師が主導する、というよりは看護師と精神保健福祉士も積極的に患者さんの診療に関わり、診療の仕方をそれぞれの職種の視点から一緒に考えております。医師は患者さんの病状からどんなお薬や治療法が良いのか、看護師は病棟での患者さんの過ごし方を見てどのような課題があるのか、精

神保健福祉士は退院後に患者さんやご家族が安心して暮らせるようにどのような支援が必要なのか、というそれぞれの観点から、多職種で患者さんの治療を考えております。

例えば、医師は24時間患者さんの様子を見られませんが、24時間患者さんの看護をしている看護師から、「この患者さんはあんまり眠れていないですよ」と聞くと、「診察では眠れていると聞いていたけれど、もう一度患者さんから話を聞いてみよう」と思わされたり、精神保健福祉士から「この患者さんはお仕事のことで不安があるようです」と聞かされると「お仕事のことで掘り下げて聞いてみよう」と考えさせられたり、そのように多職種で話をしながら患者さんの診療をより良くできるように努めております。外来についても、まずはどうしたらいいかわからずに困っているご家族だけで相談に来ていただく形での診療もやっております。そこからご本人の受診や治療に繋がっていくケースもたくさんあります。

精神科と聞くとハードルが高く感じるかもしれませんが、ですが、吉祥寺病院ではこのように診療を行って患者さんやご家族が安心して過ごせるよう日々努めております。少しでも受診や入院をされたいと考えている方はぜひ一度ご相談いただけたらと思います。

朝顔や 釣瓶とられて  
もらひ水 (加賀千代女)



著者近影

秋がまたやって来ました。夏の花と思われがち「朝顔」は、実は秋の季語です。朝顔が咲く旧暦の7、8月(新暦の8、9月)は、旧暦では秋だからです。ところが(?)、千代女の時代から千年も大昔になると、「朝顔」は**桔梗**(読みは「きちこう」)のことだったと云います。桔梗は、明智家、(三宅秀の)三宅家(そして我が家も)の家紋です。

辞世に桜花を詠んだガラシャが帰天したのは秋の日(旧暦7月17日)でした。ガラシャが輿入れした勝竜寺城のある長岡京では、毎年(新暦の)秋・11月に「長岡京ガラシャ祭」が催されます。

### [25] 駒込片町(2)

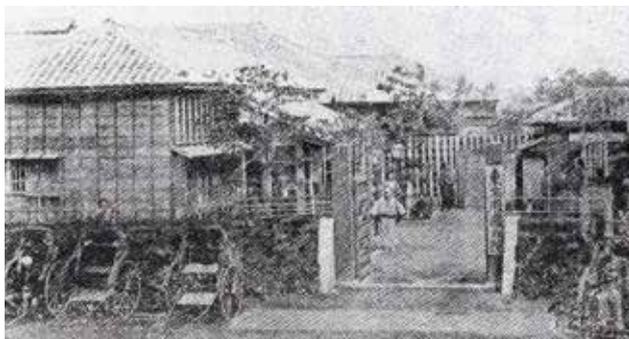
片町に さらさ染むるや 春の風 (与謝蕪村)

この句の「片町」は、京の堀川通のことですが、中山道駒込宿の東側・(駒込片町改め)駒込東片町は、**東京府癲狂院**(東京府巢鴨病院の前身)が1881年(明治14年)から(巢鴨駕籠町(現・文京区本駒込2丁目)に移転するまでの)5年の間あった町です。

東京府癲狂院と云えば、「相馬事件」の舞台とし

て有名です。相馬藩(陸奥中村藩)藩士だった錦織剛清が、廃藩置県後10余年の1883年(明治16年)、誠胤(最後の相馬藩主; 1852～1892)の私宅監置と東京府癲狂院入院は「不当監禁」であると告発したのが「相馬事件」の始まりです。精神神経学会の公式サイトに「相馬事件について」というページがありますので、読んでみましょう。なお、分裂病は現・統合失調症のことです。

「旧中村藩主 **相馬誠胤**は、24歳で緊張病型分裂病とおもわれる精神変調にかかり、自宅に監禁されたり東京府癲狂院に入院したりし、1892年(明治25)自宅で糖尿病で死去した。1883年ごろから、**錦織剛清**ら旧藩士の一部は、殿様の病気とは御家の財産をのっとりとする陰謀だとして訴えを起こしていた。1887年(明治20)には、錦織は東京府癲狂院から相馬を脱走させた。相馬の死後1年して錦織は、殿様の死は毒殺だと告訴し、相馬家側の何人かと主治医**中井常次郎**(前東京府癲狂院長)とが拘留された。中井は“毒医”として有名になった。また家令であった志賀直道(作家・**志賀直哉**の祖父)も、陰謀の中心人物として拘留された。墓を掘り返し死体を調べたが、毒殺の証拠はなく中井らは免訴となり、錦織が誣告(虚偽申告)で有罪となった。錦織に組みしていた**後藤新平**は、1893年(明治26)当時**内務省衛生局長**であったが、この事件に連座して局長を止めることになり、無罪となったのちは政治家に転進した。」



東京府癲狂院  
出典：改訂版・江戸東京医史学散歩



小国政「相馬事件」  
出典：日本精神神経学会

錦織の告訴を受けて裁判所が鑑定を依頼したのは、東京大学の外科教師・ユリウス・スクリバ、医学部長・三宅秀、内科助教・原田豊の3名でした。三宅秀は、「東京大学医学部開基の大功劳者」(by 金子準二)たる三宅良斎の長男です。

彼等の鑑定書は、こうです。

### 鑑 定 書

華族相馬誠胤<sup>よわい</sup> 齢<sup>みずから</sup>三十年身体の發育及栄養共に良全にして且強健なり 自を云ふ幼時小児病を患ふるの外曾て重病に罹りしことなし 母は幼年の時死亡し父は今尚ほ健存し既に齡六旬に達せり 又一妹一弟あり (略) 近來<sup>しゅうしょう</sup> 悄悄<sup>いせい</sup> 記憶力を減し至要の事件と雖も屢々之を遺忘するに至る (略) 癲狂院醫員の説述する所に拠れば実母叔母祖父及伯父は数々精神病を發せしことあり 相馬氏自ら陳述する所は余は久しく東京に住しに外國語を學ひち明治四年まで武術に従事し曾て政事上に関せしことなし 明治十年西南の役に際し故岩倉公の委嘱<sup>より</sup>に因て兵士募集の爲め郷里に帰りしことあり 同氏は十五歳にして戸主と為り 明治三年妻を迎へしに伉儷<sup>こうれい</sup>和合せ室を同ふすること甚たなり 偶々<sup>たまたま</sup>對語するときには動もすれば喧争をなせり 明治十二年までは常に強壯なりしか此年初めて精神病に罹りたるにや禁錮<sup>わづか</sup>の身となりしか 本年七月千八百八十四年に至り僅に数日の自由を得たるも此間尚本郷區田町<sup>ふうてん</sup>瘋癲病院に在り幾もなく又本院に投したりと依て何を以て精神病に罹れりと思せしやと問へば 答<sup>こたえて</sup>曰<sup>いわく</sup>数々憤怒に堪る能<sup>あた</sup>はさると殊に一室に閉居せられたるとを以てなりと 又曰く同年中從來居住せし家屋破壊せしを以て更に粗惡の矮屋に移轉せざるへからざるの時に際し甚た不満に堪へざるの余り不忠の家人を罰せんかため鎗<sup>やり</sup> 劔<sup>つるぎ</sup> 刀<sup>たち</sup>等の凶器を以て家扶等を脅迫せしこと数回之れあり 就中家令富田某なるものは二年以來頗<sup>すこぶ</sup>る情誼不和にて日を送りしか故に尤も之を嫌忌せり 其後尚ほ斯く如き憤怒を發すること之れありしも既に脅迫するの器なく又脅迫すへきの人なきか爲めにに憤怒を座右の器具に漏せしのみ 而して斯く如き憤怒は毫も前兆なくして突然發するを常とせり

(大幅に略)

抑々相馬誠胤氏は往時に在ては一の諸侯たるへきの人にして當時同氏は發病の前日及び今日の状態と全く相異なる所の生育<sup>う</sup>を享け其地位を占有せり 然

るに漸次世の変遷に由り其権力を失してより身体と精神に不和を生ずるに至りしなり 是其<sup>これその</sup>病源の一なり 又同氏の配偶<sup>よろしき</sup> 宜<sup>かつ</sup>を得ず且不幸にして曾て一子を<sup>あ</sup> 擧げず 是其<sup>これその</sup>病原の二なり 此二事は則ち遺傳の素因之れなきも實に精神病を發する原因を作すに足るものなりんや其状態は単に憤怒のみに止らずして数様の音聲を聞き或は異形の現象を視るか如き精神病の主徴たる視聽の錯誤あるに於てをや 故に同氏は醫學上に於て**狂躁発作を有する鬱憂病**と認むき精神症に罹れるものと断定す 但近來稍々快復に趣きたるか故に適應の療養を加ふれば全然治癒するの目的あるものとす

千八百八十五年一月三日

ドクトル、スクリバ

(略)

同氏の滞院中に發顯する症状は同癲狂院長中井常次郎氏の報告<sup>かれこれ</sup>を得彼是參互し果して「ドクトル、スクリバ」氏の断定せる狂躁発作を有する鬱憂病なりとの鑑定に同意し茲に其意見なきを證明す

明治十八年三月十二日

東京大學教授 三宅 秀

同 原田 豊

「狂躁発作を有する鬱憂病」とは、今日の「**双極性感情障害** (=躁鬱病)」に当たると思われます。

この鑑定の翌年、東京大学医学部は「帝国大学医科大学」になり、三宅秀は初代の医科大学学長になります。そしてその更に翌年正月、錦織は**東京府癲狂院**に侵入し、相馬誠胤を連れ出して後藤新平(当時



榊 椒

出典：ウィキペディア

内務省衛生局長。以前に愛知県医学校（現・名古屋大学医学部）校長兼病院長。後に内務大臣、外務大臣。邸に匿うという蛮行（？）に及びますが、僅か一週間で誠胤を相馬家に奪い返され、誠胤はその年3月に医科大学第一医院（現・東大医学部附属病院）に入院し、前年に精神病学教室を開いて初代教授になっていた榊椒（1857～1897）の診察を受けました。その時の「診断書」を見てみましょう。

## 診 断 書

（前略）

在院中の症状並に既往症に依り左の如く診定す

〔遺伝歴〕（略）母方には精神及脳病の系統あり（略）母は二十六歳の時より発狂して治せず四十歳に至り卒中症にて死し其弟（即ち誠胤の叔父）は平素狂人に齎しき所行ありて明治十七年六月より発狂し十八年九月本郷癲狂院に於て死し其妹（叔母）は明治七年発狂し後癒へ同十一年肺炎症にて死去すと

〔既往症〕（略）明治九年頃より些事に疑心を起して憤怒し往々乱行あり愛憎喜怒常に定らず侍士侍女を呵責し憤怒すること枚挙に遑あらず（略）十二年春以来病状大に増進し其四月一室に鎖鑰するに到れり檻内にては平時は沈黙して人と接するを忌避するか如しとも発作時に至れば器具を擲ち高声に朗吟し仏経を誦する等総て躁狂状を呈す十七年中頻りに独語し人を殺さんとするの状ありと云ふ明治二十年三月十日医科大学第一医院に入院す

〔現在症〕（略）体格中等栄養佳良にして皮下脂質良く発育し顔面は稍や蒼白にして容貌少しく怒気を含むものの如し頭蓋は稍や屋背形を為し膝蓋腱反射機全く消失す又精神の異常をれば記憶力の僅に減衰すると感情の遲鈍なるとの他別に病状なし

〔入院中経過〕自最初六日間は別に癲狂状のことなし只夜間安眠せざると便秘あるとを訴ふるのみ（略）十六日に至り舉動活発となり音声高く多弁となる加之夜間往々幻聴を起す例之天井に男女の声ありて雑話せりと云うか如きあり身体の舉動甚た不安となり或は廊下に走出して急に便所に至り或は室に歸りて足踏す若し故を問へは今日は空気濃厚となり咽喉部に苦悶を覚ゆ故に此行をなすと云へり顔面は紅を潮し眼光鋭くして濕潤せ

る如く脈は百二十博を数ふに到れり此症状漸々増進し廿二日の夜卒然看護人（大学の小使）の両耳を捕へ爪を以て外傷を負はしめしく出血せしむ又暫時にして再び顔面に負傷せしむ其故を問へは曰彼の小使は顔貌狸の如くにして時々室内を窺ふを以て如此處置せり別に原因あることなしと二十五日諸症減退し彼の暴行を悔悟せり四月二日頃再び幻聴を發し精神活発となる四日夜起て暴行せんと欲す依て投薬し種々説解を加へて漸く安静ならしむ夫れより病勢稍々減退せりと雖も十日の夕刻に至り一の原因なくして飯杓子を以て看護人（患者方より附添へ）の頭部を打ち負傷せしめ出血たしく終に外科施療を行ふに到れり其后精神常に復し大に悔悟し状をはし今日迄暴行なし

〔診断〕以上掲載する者を総括するは誠胤は神経病家の血統に屬し齡二十六歳の時より発病し今猶ほ精神病に罹る者とす之に医学上の名称を附すれば**時発性躁暴狂**なる者とす而して遠因は遺伝歴に依り明瞭なれも近因は不明なり  
右之通診断仕候也

明治二十年四月十九日

主任医 帝国大学医科大学教授 正七位 榊 椒

右は拙者共に於ても同意に候也

帝国大学医科大学教師 ベルツ

帝国大学医科大学教授 従六位 佐々木政吉

「時発性躁暴狂」とは聞き馴れない病名ですが、現在症と経過の記載から今日の「統合失調症」であることが分かります。診断書に書かれた「(病院の)看護人」が「大学の小使」だというのは驚きですね。「大学の小使」と云えば、鷗外の「雁」で玉を妾にした「未造」が思い起こされます。

また、(幻聴による)暴行に「投薬」とありますが、抗精神病薬が無いこの時代、どんな薬物を投与したのでしょうか？夜間だったので、何か睡眠作用のある薬物でしょうか？

なお、同意者のベルツと「鑑定書」のスクリバは[10]の胸像の主です。この両先生の見解が大きく分かれたのは興味深いことです。また佐々木政吉は、帝国大学医科大学第一内科初代教授で[13]の佐々木東洋の養子ですから、三宅秀の義甥にあたります。

# 企画運営会議プレゼント 夏はみんなで BBQ イベント

企画運営会議 C チーム 根岸 麻矢



BBQ

令和6年8月30日（金）18：30～21：00  
企画運営会議 C チーム恒例の職員イベントを開催しました。今回は事前にとった職員アンケートの希望で「他部署と関わりのもてる企画を」「せっかくコロナがあけたので屋外も開放感があってよい」という意見が多く寄せられたため、初の屋外での BBQ 開催としました。ご協力いただいたのは吉祥寺 PARCO 屋上に設置されている BBQ DAYS さんです。こちらは、炭や機材の準備・片付けも不要、食材や飲み物の持ち込み OK な BBQ 会場でした。しかも貸し切りにしていただき我々だけの吉祥寺の夜景と BBQ を堪能することができました……とここまでは本当のことではありますが、万事順調だったわけではありません。今年の猛暑も心配の一つではありましたが、それよりも台風 10 号が迫っているバッドコンディションの時でもありました。台風のため中止にすることは簡単ですが、総勢 156 名が参加を希望してくれた一大イベントですから、夏場に再度日程の調整をすることは不可能です。昨年の忘年会から半年過ぎ、病院目標達成のため走り続けている職員の皆様に何もしないなんてありえません。幸い当初の予定よりも東京上陸が 1 日ずれる

ということだったので決行するに至りました。当日は、暑さもそこそこ、あとは雨と風の心配でした。小雨が降っていたので予定のテーブル配置を変更し若干開始が遅くなりましたが、開始してしばらくは雨もない状況でほっとしていたところ、中盤になり突然の豪雨！ テントの屋根の下なので多少の雨であれば凌げたのですが豪雨です！ 一瞬緊急避難も考えましたが、職員の皆様は驚いていたもののそのまま盛り上がりださってるではありませんか！ 私たちが慌てている間に雨は 15 分間で終了してくれました。最悪のコンディションだったにもかかわらず、誰一人退席なく過ぎ、後のアンケートでも「雨は大変でしたが、それも良い思い出になりました」と温かいお言葉をくださいました（当然「次は天気は左右されない場所で……」というご意見も多く寄せられましたが）。どんな状況でもそれを楽しんだり良い思い出に変換してくれる思いやりにあふれた優しいうちの職員さんたちは最高です！ 企画運営会議 C チームは「職員がやりがいを持って働ける環境づくり」を担当しています。来年はトラブルのない職員イベントを開催できるよう頑張りますので楽しみにしててくださいね。

# 私の趣味紹介

## ～下手の横好き～

ペンネーム モツ鍋

ここ最近の趣味といえば、釣りです。もともと釣りが好きだったとか親が釣り好きだったとかそういう訳ではなく35歳を過ぎた頃から歳をとってもできる趣味をみつけないとそんな風に考えるようになりました。あまりお金がかからないものでかつ体がそんなに大変ではないものかと思い、いろいろと手を出してみました。通信教育で水墨画の講座を申し込んでみたり、合気道に通ってみたりしましたがどれも長続きしませんでした。そんな時に職場の先輩に千葉の釣り堀に連れて行ってもらう機会がありそこでハマりました。

ここでは魚の釣り方だけではなく、魚のしめ方や捌き方まで教えてもらいました。釣って楽しい、食べて美味しい、すごく良い趣味を見つけられたとこの時は思っていました。ところが実際に一人で釣りに行こうとすると何を準備したら良いのかとか、どこに行ったら釣りができるとか分からないことばかりでした。

ちょうどその頃世の中ではコロナが大流行し人と距離が取れるレジャーとして釣りが流行していました。初心者向けの動画がたくさんアップされ、僕も色々な動画を見て研究をしました。不思議なもので釣れる動画ばかり見ていると釣れる気になってくるのです。散々動画を見て釣れる気になって、海に行くともったく釣れない。また動画を見て、竿の問題なんじゃないか、エサが良くなかったんじゃないかなんていろいろと準備していくけれど、それでもまったく釣れない。千葉の先端まで行ってみたり、夜明けとともに釣りができるように前日から出かけてみたり、それでも釣れず疲労と共に帰宅みたいなことが続き今に至っています。家族からは病気だと言われていますが時々魚が釣れた時の手応えが忘れられません。

これからも同じような感じだと思いますが、どっぷりハマっているので当然この趣味から抜け出せそうもありません。今年の秋こそはアジを嫌と言うほど釣れる、そんな気がします!!



うなぎが釣れた!



タヌキに遭遇

## ● お詫びと訂正 じんだい 第76号 (2024年7月25日)

じんだい第76号 P.7「私の趣味紹介」に記載の誤りがございました。

左段落の最下行 <有名な「屈辱」という芝居>ではなく、正しくは<有名な「屈原」という芝居>です。

訂正してお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。

# 令和6年度 大規模地震医療活動訓練に参加しました

吉祥寺病院 DPAT メンバー 種田 将・守田 亨  
佐々木 章倫・野口 明子

9月28日に当院DPAT（災害派遣精神科医療チーム）メンバーのうち4名が表題の訓練に参加させていただきましたので報告いたします。

訓練前日の9月27日に首都直下地震の発生し、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に甚大な被害が発生したとの想定で、我々はDPAT活動拠点本部に参集して本部運営を行う訓練概要でした。

訓練当日は午前7:00に吉祥寺病院を車で出発し区南部（大田区、品川区）災害拠点病院である東邦大学医療センター大森病院へ参集、東邦大学医療センター大森病院と島根県立こころの医療センターのDPATチームと合流し、区南部DPAT活動拠点本部を立ち上げました。

訓練ミッションは、区南部圏域における精神科病院やその他の精神科介入ニーズをモニタリングし精神科病院支援や搬送の調整を行うことでした。甚大な被害により区南部にある精神科病院の建物が一部倒壊し、その影響で精神症状を著しく崩してしまっ



た患者さん、大規模総合病院に設置された医療救護所で地震に関連したストレスによって急性的に精神症状を崩してしまった患者さんをそれぞれ適切にそして安全に転院、入院していただく調整を東京都DPAT調整本部、他圏域のDPAT活動拠点本部、受け入れ先の精神科病院等と連携を行いながら実施しました。

## 参加メンバーからの声

- 他のDPATやDMAT隊との連携から始まるリアルタイム訓練で緊張した。
- 連絡調整を対策本部とやり取りをしつつ、各所個別の部隊への伝達を正確に行い、刻々と過ぎる時間経過の中やり続けることが大変だった。
- 各部隊役割の範囲と活動領域の把握をしたうえで、逐次連絡と起こる問題の解決をDPAT部隊全体で検討しなければならず緊張の連続であった。
- 各組織の指示系統を乱すことなく最善手を限られた情報とリソースで見つけていくことは、隊外との調整が必至であり自隊としての主体性を持ちつつも自制が同時に必要な場面が多かった。
- 自身の学びとして、実想定での大規模訓練であったため東京直下型地震での活動イメージを明確にすることができた。
- DPAT隊での情報、技術共有をすすめ、当院でのEMIS周知と活用をサポートしていきたい。



検査室はA棟1階、自動販売機の近くにあります。脳波、心電図室は外来の隣にあります。検査室は一人体制で仕事をしています。検査室が不在になるときは外来のスタッフ（看護師）に検査室の仕事をお願いしています。

検査室の主な仕事は、心電図検査、脳波検査、緊急検査（血算・生化学検査・HbA1c）、一般尿検査、妊娠検査（尿）、尿中薬物検出検査、視力、聴力検査、外注先へ検体の提出と結果取り込み、夜勤者検診、入職者検診などです。

検査機器の紹介をします。

- 心電計：FCP-8300（フクダ電子）
- 脳波計：Neurofax EEG-1250（日本光電）
- 血圧計：スポットアーム（オムロン）
- 視力計：スクリーンスコープSS-3（トプコン）
- 聴力計：Audio meter AM-1（ミナト医科学）
- 多項目自動血球計数装置：pocH-80i（Sysmex）
- 生化学自動分析装置：富士ドライケム NX500（FUJIFILM）
- パック式臨床化学分析装置：アフィニオン2（Abbott）

その他、一般尿検査では

- 多項目試験紙キット（ウロペーパー-Ⅲ5）栄研化学
- 薬物中毒検出用キット→シグニファイ ER（Sysmex）
- 尿中hCG検出試薬→ゴナスティックW（持田製薬）
- インフルエンザウイルスキット SARS コロナウイルス抗原キット→クイックナビFlu+COVID19Ag（大塚製薬）

上記の検査試薬、検査キットを検査室に常備しています。

脳波計は2021年4月に新機種になり、熱ペンで記録用紙に記録するアナログ形式からデジタル形式に変更され、あらかじめ設定しておいたすべてのチャンネルが再生可能になりました。今では記録した波形は記録用紙を使用せず脳波計に保存されています。

心電計は以前使用していた機種のパッケージ容量が少なくなり2020年10月に新しい機種に変更しました。心電図記録容量も十分にあり、電子カルテ導入後はとても便利に使用できています。

多項目自動血球計数装置は休日、夜間に検査するために2018年12月に購入されました。今では、外来でクロザリルを服用している方の緊急検査を主に行っています。

パック式臨床化学分析装置も外来でクロザリルを服用している方のHbA1c検査を緊急で行っています。

一般尿検査に使用する多項目試験紙キット（ウロペーパーⅢ5）の測定項目はウロビリノゲン・タンパク質・ブドウ糖・pH・潜血です。

血圧計、視力計、聴力計は入職時検診、夜勤者検診に使用することが多いです。

検査室で仕事をしているとあまり部屋から出ることがなく、存在感が薄いのではないかと考えています。誰とも会話した記憶がないなんて日もありそうです。そんな日でも電話で少しは話しているかもしれません。あまりに寂しいので部屋に来るありんことかダンゴムシと戯れています。今後ともよろしくお願いいたします。

## 当院のおすすめメニュー

### 長芋とおくらのサラダ

夏の疲れが出てきた頃にさっと1品。生食できる冷凍野菜でも作れます。

#### 材料（1人前）

- |         |     |      |         |
|---------|-----|------|---------|
| ①長芋千切り  | 40g | ③味ぼん | 3g～お好みで |
| ②きざみオクラ | 20g | ④ゴマ油 | 1g～お好みで |



#### 作り方

①～④を混ぜるだけです。発展型として、お好みの食材を入れてもよいと思います。（豆腐にかけるとたんぱく質も摂取できる一品になります）

収穫の秋なので旬の野菜が賑わいますが、最近は自然解凍するだけで美味しく食べられる冷凍野菜が店頭で並ぶようになりました。お仕事でお疲れの時は、それらを上手に組み合わせてご家庭の食卓を手軽に彩ることができますね。

# 外来担当表

## ● 初診

	月	火	水	木	金	土
第1週	畑	岡田	森	田澤	狩野	市川
第2週	中村	山室	永尾	宮崎	種田	秋山
第3週	畑	岡田	森	田澤	狩野	市川
第4週	中村	西岡	永尾	宮崎	種田	秋山
第5週	畑	岡田	森	田澤	狩野	市川

## ● 再診

	月	火	水	木	金	土
午前	土井 市川 森 田澤 種田	院長 土井 市川 西岡 山室 秋山	原藤 森 西岡 山室 岡田 南	市川 田澤 山室 畑 宮崎 中村	市川 森 西岡 岡田 畑 種田	森 西岡 山室 狩野 亀山
午後	南澤井	相馬	森(栄) 澤井	小島 山下	森(栄) 塚本 西本	

### 受付時間

- 月～金 午前 9時～11時 (初診・再診)  
午後 1時～ 3時 (初診)  
※午後の再診は事前予約の場合受け付けています
- 土 午前 9時～11時  
午後 入院は受け入れています

当院は「敷地内全面禁煙」です。



調布市深大寺北町4-17-1

## 編集後記

いつも「じんだい」をお読みいただきありがとうございます。

今回は秋のモンゴルの写真を表紙に採用しています。また、コロナ禍に開催できなかった文化祭についての特集もあります。部署紹介や吉祥寺病院の医師によるコラムなど是非ご一読いただきたい記事ばかりの構成となっています。もちろん、西岡先生の連載もありますよ。秋の夜長の読み物のひとつに「じんだい」、いかがでしょうか。

ペンネーム マチルダ

涼しく過ごしやすい気候となってきましたね。今月号は長い歴史を持つ文化祭についての記事をまとめるべく、吉祥寺病院に長く勤める大先輩社員からお話を伺いました。入院中の患者さまも楽しまれ、フランクフルトの屋台には行列ができたらしい！今年はどうな文化祭になるのか今からワクワクしています。次号で文化祭の様子もお届けできるかも！？

ペンネーム りか